

令和5年度 家庭基礎（2単位）シラバス

科目	家庭基礎	単 位	2単位（70時間）	学 年	第2学年1組
使用教科書	高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる(第一学習社)			副教材等	家庭基礎学習ノート(第一学習社)

学 習 の 到 達 目 標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>
---------------------------------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	4	家庭科の学び方－学習から実践へ ・ホームプロジェクトとは ・学校家庭クラブ活動とは	<ul style="list-style-type: none"> ・「ホームプロジェクト」の意義と実施方法について理解する。・生活の中から課題を見出し、個人単位で主体的に計画を立てて問題の解決をはかる。 ・「学校家庭クラブ活動」の意義と実施方法について理解する。 	○	○	○	・課題提出 (家庭基礎の授業全体を通じて行う)
1章 これからの生き方と家族第1節 生涯の生活設計							
		1. 生涯発達する自分一人と人のつながりのなかで	・生涯発達の視点に立って、乳児期から高齢期までのライフステージの特徴と課題を見通し、その課題を他者と関わりながら達成し、生まれてから死ぬまで発達し続けていくという考え方を理解する。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・ノート提出 ・単元テスト
		2. 青年期を生きる	・自立した生活を営むために、生涯を見通しながら、様々な生活課題に対応して適切に意思決定し、責任を持って行動することが重要であることへの理解を深める。	○		○	
		3. キャリアの形成	・自分の目指すライフスタイルを実現するために、職業選択などの具体的な事例を取り上げたりして考察し、生活設計を工夫する。	○	○		
		4. ワーク・ライフ・バランスを求めて	・固定的な性別役割分業意識の見直し、男女の平等と相互の協力などを取り上げ、生涯を見通した中で青年期をどのように生きるかについて理解を深める。	○	○		
第2節 家族・家庭と社会とのかかわり							
1	5	1. 家族・家庭・世帯	・歴史的、文化的、社会的制度としての家族について理解できるようにする。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・ノート提出 ・単元テスト ・定期考査
		2. 家族・家庭の働き	<ul style="list-style-type: none"> ・家族形態の相違による家庭生活のあり方について検討し、その多様性を理解する。 ・家族の信頼関係によってつちかわれる精神的・社会的な人間形成の重要性について理解する。 	○		○	
		3. パートナーと出会う	・相互の尊重と信頼関係のもとで夫婦関係を築くこと、共に協力して家庭を築くことの意義や重要性について認識する。	○	○		
		4. 結婚と変化する家族	・現代の家族・家庭の課題を経済や制度などの社会環境の変化と関連付けて理解する。	○			

		5. 家族に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・婚姻、夫婦、親子、相続など家族に関する法律や社会制度の基礎的な理解を手がかりとして、現代の家族・家庭について理解を深める。 ・明治民法と現行民法を比較し、どのような違いがあるか、これまでに実現した家族法のおもな改正点、まだ実現していない制度などについて、理解する。 	○			
2章 次世代をはぐくむ 第1節 子どもの発達							
	6	1. 次世代をはぐくむ	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもはこれからの社会を築いていくという視点から、子どもを生み育てることの意義や地域の一員として子どもの成長に関わることの意味について考えることができる。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・ノート提出 ・定期考査
		2. 命のはじまり	<ul style="list-style-type: none"> ・胎児の環境としての母体について理解し、母体の健康管理の重要性と生命の尊さへの認識を深める。 ・母体と子どもの健康には、家族、特に父親の協力と、それを支える社会のしくみが必要であることを知る。 	○		○	
		3. 乳幼児の体の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の発育や運動機能などの発達の概要を理解できるようにする。・乳幼児期は人間の発達の段階において最も発達が著しい重要な時期であることや、子どもの発達には個人差はあるが、一定の方向性や順序性があることを理解できるようにする。 	○			
		4. 乳幼児の心の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・言語、認知、情緒、社会性などの発達の概要と、それらの発達が密接に関連していることを理解できるようにする。・乳児期の親との関わりによる愛着の形成は、将来の人間関係の基礎となることを理解できるようにする。 	○			
第2節 子どもの生活							
	7	1. 親と子のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的自立のためには、子どもの発達に応じて基本的な生活習慣や社会的な規範を身に付けさせることが親や家族の重要な役割である事を理解できるようにする。 	○			
		2. 乳幼児の生活と安全	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理と安全への配慮などについて理解できるようにする。安全や衛生に気を配り室内外の環境を整えたりすることの必要性を理解する。 	○		○	
		3. 子どもの成長と遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びが子どもの生活において重要であること、遊びを通して様々な心身の発達が促されることを理解できるようにする。 	○			
第3節 子育て支援と福祉							
		1. 地域社会と子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・社会環境の変化による人間関係の希薄化、自然とふれ合う経験の不足、育児不安や孤立感、保育所不足と待機児童の問題などを取り上げ、子育て支援の必要性について理解できるようにする。 	○	○	○	
		2. 未来を担う子どもの権利	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の権利に関する条約等、子どもの福祉について理解できるようにする。 ・子どもの貧困や虐待の問題などを取り上げ、現代の子どもを取り巻く社会環境の課題について理解できるようにする。 	○	○	○	
3章 充実した生涯へ							
2 学 期	9	1. 超高齢社会を生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通して高齢期を捉え、長くなった人生を、可能な限り充実させるには何が必要か、自分たちはどう老いていきたいかを考える。 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・ノート提出 ・単元テスト
		2. 人生のなかで高齢期をとらえる	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の身体的特徴と心理的特徴の概要について理解する。・加齢にともなってすべての機能が衰えるわけではなく、成熟期として捉えられる面もあることや、個人差が大きいことを理解する。 	○			
		3. 高齢期の生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ノーマライゼーションの視点から、高齢期になっても誰もが安心して自立的な生活を送ることができる社会について理解する。 	○			
		4. 高齢社会を支える	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の高齢者福祉の基本的な理念や高齢者福祉サービスなど代表的なものについてふれた上で、社会の現状と今後の解決すべき課題について理解する。 	○			

		5. 充実した高齢期へ	・高齢期の人たちにとっての、地域での生活の大切さを理解する。	○		○	
4章 ともに生きる							
	10	1. 社会保障制度と社会的連帯	・社会的制度、社会福祉の基本的な理念、ともに支え合って生きる社会の考え方について理解する。	○			・授業態度 ・ノート提出
		2. 人の多様性と社会参加	・異なる背景を持つ人々がともに支え合いながら生きていくことの必要性、関連する現代の社会の現状について理解する。(ノーマライゼーション等)	○			・単元テスト
5章 食生活をつくる 第1節人の一生と食事							
		1. 私たちと食事	・日常の食生活を振り返り、健康や生活習慣に直結する食事について学ぶ意欲を高める。		○	○	・授業態度 ・ノート提出
		2. 健康に配慮した食生活	・現代の食生活の実情を知り、健康で安全な食生活を営むための基本を理解する。	○			・定期考査
		3. 食生活の変化	・PFC比率に注目し、日本は脂質のとりすぎの傾向にあることを理解する。	○			
		4. 持続可能な食生活	・日本の食料自給率の低下や輸入依存の実情を知り、その原因を探るとともに、食料の安定供給について考える。		○	○	
第2節 栄養と食品							
		1. 人体と栄養	・健康な生活を送るうえで必要な栄養素とそのおもな働きについて理解する。	○			・授業態度 ・ノート提出
		2. 炭水化物	・エネルギー源としての糖質、腸内環境を保つ食物繊維について理解する。	○			・定期考査
		3. 脂質	・エネルギー源として、また体構成物質として働く脂質の役割について理解する。	○			
		4. たんぱく質	・体の組織をつくるたんぱく質とそれを多く含む食品について学び、他の食物との組み合わせによるたんぱく質の補足効果を理解する。(アミノ酸価)	○			
		5. 無機質(ミネラル)	・無機質の種類と働き、それらを多く含む食品について理解する。	○			
		6. ビタミン	・ビタミンの種類と働き、それらを多く含む食品について理解する。	○			
		7. し好食品と健康増進のための食品	・調理加工食品や、調味料・香辛料などの種類と働きについて基本を理解する。 ・健康増進のための食品について基本的な理解をはかるとともに、サプリメントの効用や扱い方についても考える。	○	○	○	
第3節 食生活の安全のために							
	11	1. 食品の選択と保存	・各食品の保存法について取り上げ、理解する。 ・消費期限・賞味期限をもとに食品を正しく選ぶ力を養う。(食品表示、栄養表示も併せて理解する)	○	○		・授業態度 ・ノート提出
		2. 食品の安全と衛生	・食中毒にはどのような種類があるかを知り、食品の取り扱い、手の清潔、台所や調理器具の衛生などの面での注意事項について学ぶ。 ・食品添加物の用途を理解するとともに、食品に含まれている食品添加物の名称・使用目的などを調べ、購入に際しての選択法を身につける。	○	○		・定期考査
第4節 食生活をデザインする							
		1. 栄養バランスのよい食事	・健康の維持・増進、体の成長のために必要な食事摂取基準について理解する。	○			
		2. 食品群と摂取量のめやす	・食事摂取基準を満たすためには、どの食品をどれだけ食べればよいかというめやすを示した「食品群」について学習する。	○			
		3. ライフステージと食事	・ライフステージごとに、必要な栄養素や嗜好の違いを理解する。	○			
		4. 献立作成の手順	・ライフステージに合わせた食事計画を立て、1日3食のバランスがとれた形でつくれるようにする。		○	○	
		5. 調理の基本	・食品の選択・計量・器具の扱い、および包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得する。		○	○	

			※調理実習を年間3回程度予定				
	12	6章 衣生活をつくる 第1節 人の一生と被服					
		1. 私たちと衣生活	・被服は、気候・風土によって異なる一方、人生という長い時間軸で見ると、ライフステージによっても違ってくることを理解する。	○			
		2. 被服の機能 -保健衛生上の機能	・被服の持つ保健衛生的な機能を生かし、望ましい着装について考える。	○	○	○	
		3. 被服の機能 -社会生活上の機能	・被服の持つ社会的・文化的な機能を生かし、望ましい着装について考える。	○	○	○	
		4. 被服の選び方	・被服を購入する際には、品質表示をもとに取り扱い表示やサイズ、着心地、動きやすさ、縫製の善し悪しなどを調べることの重要性を理解する。	○	○	○	
		第2節 被服材料と管理					
		1. 被服の素材	・自分の身のまわりの布がどのような繊維でつくられているかに関心を持たせ、着心地に影響する布の性能について理解する。	○			
		2. 洗濯方法と表示	・洗濯には湿式洗濯と乾式洗濯があり、それぞれの特性を理解したうえで、品質に応じて洗濯することを学習する。	○			
		3. 洗濯のしくみ	・家庭の湿式洗濯に用いられる洗剤について、その働きや成分を知り、環境に配慮した洗濯の工夫について考える。	○	○	○	
		4. 被服の手入れと保管	・被服の劣化を防ぐためには、よい被服を選択すること、手入れをすることで適切に管理することが必要であることを理解する。	○			
	12	第3節 これからの衣生活					
		1. 衣文化の継承と創造	・着物という日本の伝統衣装についての理解を深め、伝承に努める。	○			
		2. 持続可能な衣生活	・衣生活の面からできる、環境に負荷を与えない行動を考え、実践する。		○	○	
		7章 住生活をつくる 第1節 人の一生と住まい					
		1. 私たちと住まい	・日本各地に見られる特徴的な住まいを比較し、住まいは、条件の異なる地域の気候や風土に応じてつくられたことを理解する。	○			
		2. 平面図の活用	・家族の生活行為と住空間とのかわり、生活行為や動作に必要な広さ、動線などについて理解する。	○			
		3. 長く住み続けるために	・住まいの耐久年数を維持するためのメンテナンスについて理解を深める。	○			
		4. 生涯を見通した住まいの工夫	・人生における各ライフステージに必要とされる居住条件と住まい方について考える。	○	○	○	
		第2節 住生活の計画と選択					
3 学 期	1	1. 快適で健康な住まい	・日照・採光・通風・温度・湿度・遮音などの住環境が、健康な生活に大きな影響を与えることを理解し、衛生的な室内環境を整備するためには、どのような工夫が必要か考える。	○	○		・授業態度 ・ノート提出 ・定期考査
		2. 安全で安心な住まい	・地震などの自然災害や、火災などの人的災害への対策について考える。 ・家庭内事故の原因について知り、乳幼児や高齢者、障害者などの家庭内事故を防止するためにはどのような安全対策が必要か考える。	○	○	○	
		3. 持続可能な住まい	・さまざまな生活条件を持った人びとが、安心して住めるよりよい住環境について考える。	○	○	○	
		4. 住まいと地域社会のかかわり	・住生活基本計画ではどのような住まいがめざされているかについて、関心を持つ。	○	○	○	
		8章 経済生活をつくる 第1節 私たちの暮らしと経済					
		1. 人生とお金	・個人や家族の生活目標を実現するためには、経済計画が必要であることを理解する。	○			・授業態度 ・ノート提出

		2. 収入と支出のバランス	・家庭の生活を支える収入と支出の運営など、家計の管理について理解する。	○			・定期考査
		3. 将来の経済生活を考える	・家庭経済と国民経済とのかかわり、経済社会の変化が家庭経済にさまざまな影響をおよぼしていることを理解し、家庭の経済計画、予算計画の必要性を認識する。	○			
第2節 消費者問題を考える							
	2	1. 契約とは	・財・サービスの購入はすべて契約であることを知り、契約の重要性を理解する。 ・消費者被害の事例を通して、消費者被害の状況を理解し、消費者被害が起こる原因を考える。 ・契約した後でも、考え直して解約できる方法があることを理解する。	○			・授業態度 ・ノート提出 ・単元テスト
		2. 消費者問題はなぜ起こるのか	・大量生産・大量消費の時代に、商品の購入と消費めぐって消費者側が不利益や被害を受けたことを契機に消費者問題が生じたことを理解する。 ・消費者として適切な意思決定のもとに権利を行使し、責任ある消費行動を取っていかうという態度を養う。 ・有用な生活情報を取捨選択して収集・活用していくことが重要であることを理解する。	○			
		3. 多様化する支払い方法とリスク防止	・販売方法、支払い方法が多様であることを知り、購入時に適切な判断が必要であることを理解する。 ・消費者信用について理解し、利用に際しては、慎重に行う意識と対応策を身につける。	○			
	3	4. 消費者の自立と行政の支援	・消費者関連のさまざまな法律が制定され、国や各都道府県の機関が設置されていることを理解する。 ・消費者は、生産者や行政に自分たちの意向を伝え、その実現に向けての義務と責任があることを理解する。 ・消費者の権利の保障とともに、消費者一人ひとりに責任があることも理解する。	○			
第3節 持続可能な社会をめざして							
		1. 消費生活と持続可能な社会	・現代の消費生活が資源を枯渇させ、環境に悪影響をおよぼしていることについて考えさせる。 ・持続可能な社会の実現のためには、私たち自身が環境に負荷を与えないように工夫していく必要性を理解する。	○	○	○	・授業態度 ・ノート提出
		2. 消費者市民社会をめざして	・環境負荷の少ない生活をめざして、生活意識や生活様式を見直し、環境に調和したライフスタイルの確立をはかる。		○	○	